

ごあいさつ

皆さまにおかれましては、平素より京都北都信用金庫にご支援ご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

本年度も当金庫へのご理解を一層深めていただくため、「京都北都信用金庫ディスクロージャー 2024」を作成いたしました。ぜひご高覧賜りますようお願い申し上げます。

日本経済は、コロナの5類移行により行動制限が緩和され、観光客もコロナ前の状況に戻つつあり、景気に持ち直しの動きも見られましたが、円安による物価の高騰や賃金の上昇、人材不足感が鮮明にもなってきました。海外では、中国不動産市況の低迷の他、ロシアのウクライナ侵攻や中東紛争などの地政学的リスクなどから、資源・穀物などの価格高騰や供給制限による経済への影響が引き続き懸念されます。

この間、当金庫においては、コロナの影響を注視しつつ地域のお客さまの事業支援や生活支援に取り組みました。

預金は、流動性預金が個人・法人ともに増加したことから、期末残高は前期比91億円増加の8,116億円となりました。

また、貸出金は、事業者向け融資において業況や資金繰りをタイムリーに把握し、また各種補助金等の申請支援や経営支援にも取り組みましたが、コロナ関連融資の繰上返済なども影響し、期末残高は前期比33億円減少の3,714億円となりました。

損益面については、余裕資金の運用による収益増加を図ったものの、利回り低下による貸出金利息の減少、市場金利の上昇を見据えた保有有価証券の一部売却による損失計上に加え、令和6年7月からの改刷対応等の経費が嵩み、当期純利益は前期比24百万円減少の9億52百万円となりました。

自己資本比率については、前期末から0.08ポイント上昇の8.65%となりました。

地域を取り巻く環境が厳しさを増していく中、地域の事業者を元気にすることが「地域のしあわせ」につながるとの認識のもと、資金繰り支援はもとより、本業支援に加え地域のコーディネーターとして取引先事業者に対し、行政機関、専門家、副業人材などをつなぎ、協働してイノベーションを創出する取組みに努めてまいります。また、エンゲージメント向上への取組みや業務全般における経営効率化を進める他、金利上昇に対する対応やサイバーセキュリティなどの各種リスクへの対応に加え、社会経済の潮流でもあるSDGs・GXに対する取組みに努めてまいります。

引き続き「地域活性化の実現」に向けて全力で取り組んでまいりますので、今後とも会員の皆さまの一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



理事長 藤原健司

令和6年7月